

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数)	14人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別のマンツーマンの療育。→支持が入りやすくてできる事を増やすことができる。	お子様の成長に合わせて、支援内容や、内容（1回）を支援者が工夫して準備している。その日の体調や、気持ちに合わせて、臨機応変に内容の変更もできる。保護者の要望や、主訴によって長期目標を立てて本人と保護者に達成感を味わってもらえるような療育を心がけている。	短期目標としては、支援者と信頼関係を構築して、場所にも慣れて楽しんで通所していただけるような環境作りに努める。要望や、意見をくみ取れるような場所と時間を設ける。楽しい支援内容につながる為に、工夫やアイデアが出せるように常に、支援者も学ぶ姿勢を惜しまない。また支援内容の職員間の共有をして、支援に反映させていく。
2	利用者それぞれに合わせた、オーダーメイドの療育。→お子様に合わせて、保護者の要望も含めて、毎回違う支援内容で療育が来ている。	就学前準備として、出来たらいい内容を提案している。苦手意識のある面を払拭して、小学校に不安なく入学してもらえるような課題に取り組む。	ご要望が多いのは、手先の作業の練習。生活道具の使い方の練習。身辺自立。就学前準備等。楽しんで取り組み、習得して成功体験から自信を持って、他者と関われるように支援方法を学び、変更していける支援者自身も成長する。お子様と共に、保護者の不安や、困り感を相談しやすい体制を整える。
3	保護者様と毎回顔を合わせ、当日の様子と今後の支援などをお話するフィードバックという時間がある。→家庭や幼稚園、保育園などの様子を共有でき、支援内容に活かすことができる。	年齢の低いお子さんの支援内容は、保護者の要望と本人の興味関心のある事を織り交ぜながら、目標に向かって成長していけるように支援内容・課題・教材などを工夫している。相談は、随時受け入れて、集団での相談も「座談会」という形式で実施している。個別、複数での相談も受けられる体制を整えてある。	年齢の低いお子さんと特に、支援内容が保護者の要望に偏りがちになる。お子さん本人が楽しく取り組めるように折り合いをつけることが大きな課題である。支援者が、子供たちの苦手意識のある課題も嫌いだけれど楽しく取り組めるような知識と方法を身に付ける為に学んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別で短時間の支援なので、コミュニケーションの練習などは机上の練習になってしまう。想像力や、支援者とのやり取りから学んでもらうしかない事。	小集団での療育を不定期でも実施できると良いと考えている。机上でも自ら考え選択できるようになるSSTを取り入れていく。個別だからできる、成長を促せる面と個別だから、伝わっても実践出来ない面がある事の中和が必要かもしれない。楽しく過ごせる時間も増やしていく。	机上でのSSTを充実させるために、支援者がやり取りの術を向上させるために学んでいく。児発、放デイ共に小集団での療育を不定期でも取り組めるように提案していく。
2	児発で年齢の低いお子さんの支援内容は、保護者の要望に偏りがちになる。お子さんの興味関心のある教材や課題も取り入れないと、いやな事ばかりになっていしまう可能性がある点。	苦手意識のあること、痙攣など言葉での表出が難しいからこそ起きてしまう事象。発語を促す、相手に伝わるよう滑舌の改善の為の気づき、手先や道具の使用が出来る様にとのご要望が多い。お子さんの困り感を軽減することで保護者の悩みも減らしていく必要があるかもしれない。	就学前準備として、学習にも触れているが、入学後お子様の不安を払拭することが1番。支援級が通常級かで悩まれるが、本人の意思と将来を考えて選択をお勧めする。そのための、相談はいつでも受ける体制を整備していく。
3	ありがたいことに、ご利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要だと思われるお子さん達にご利用いただけない事。	早期療育の大切さを知っていただき、年齢が低い時から支援させていただける様に周知活動を行っていく。	「誰にだって輝ける舞台がある」どのお子さんにも無限の可能性のある事、可能性を引き出すサポートをさせていただく、保護者とお子さんにとって優しい居場所となるように努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名		こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校					公表日	2026 年 2 月 14 日	
		利用児童数		14人		回収数		14人	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	5			少し狭いように思う。	現状の環境で満足いただけるよう支援していく。気になる方には個別に対応していく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13			1		適切な配置数であることを周知していく。不足と感じ不安にならないように、増員を要望していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	4				駐車場の位置などから、屋外の完全なバリアフリー化は難しいが、屋内はバリアフリー化している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14					日々清掃・感染症予防に努めている。支援中安全・安心な空間作りに努めている。	
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					こども家庭庁、行政の指導のもと事業所支援プログラムの作成、公表をしている。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					個別に要望を把握する為に家族支援、子育てサポートを要望に沿って行い、丁寧なモニタリングから個別支援計画作成に努めている。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					本人支援においては、個別支援作成時から「5領域」を必ず取り入れ、実際の支援においても取り入れ記録にも残している。家族支援は座談会や、個別の相談体制を整えてる。移行支援は、関係先と連携がとれるよう努めている。要望に合わせてなので、まだ回数は増えていないので機会を設けて今後は増やしていく予定。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	1				アセスメント、発達プログラムの使用から計画を立案している。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					毎回のフィードバック、モニタリングなどから常時、状況に応じて毎回変更できるよう努めている。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1		1		保護者からの要望に応じて行っている保護者の意向を確認し、今後、拡大を検討していく。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		5	5		契約時、また質問があれば随時説明に努めていく。	
保 護	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明に努めていく。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					個別に相談を拾えていない可能性がある。ご要望に応じて実施していく。R6年度に開催した座談会を今後も定期的を実施し集団での家族支援にも努めていく。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	2	2	3		職員がフィードバックから拾い上げた内容から家族支援、相談につなげていくよう努めている。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	13	1				子育てサポート、家族支援の実施以外にもいつでも電話対応などで、相談してもらえる環境作りに努めている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14					毎回の支援後のフィードバックから、その日の担当職員が本人、保護者から得た要望や必要な内容を情報共有し、職員間で相談しながらお悩みに沿って療育の動めていく。	

者 へ の 説 明 等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					個別療育が軸ではあるが、保護者の意向を再確認し、必要に応じて、連携を検討していく。きょうだい向けのイベント開催に関しては、今後提案していく予定。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4		3	7	特に必要ない。	個別療育が軸ではあるが、保護者の意向を再確認し、必要に応じて、連携を検討していく。相談体制は、職員と連携して個別・集団（座談会）・複数利用者向けに対応している。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1		2		毎回の支援で必ず、保護者、また本人の意思確認が出来る様に施数る時間を設けていく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	1		2		常時、会話できる・相談体制を整えている。声をかけてもらいやすい環境づくりに努めている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10		1	3		ブログや、LINE、インスタグラムなどSNS等を通して、活動内容やスケジュールを伝えている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1		3		鍵のかかか書庫にしまっている。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1		3	訓練が実施されているかわからない。	年間スケジュールを作成し、月1回以上の訓練を行っている。今年度から、安全計画に沿って実施し、掲示・ブログ・インスタグラム等を通じて訓練内容を周知していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1		6		安全計画に基づき、設備校舎環境の点検と共に、防災含め避難訓練や避難所、備蓄品の確認に努めていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	3		2		安全計画に基づき、設備校舎環境の点検と共に、防災含め避難訓練や避難所、備蓄品の確認に努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			3	事故等発生したことがない。	作成されたマニュアルにに沿って、事故発生後の緊急事態層の周知と、事故発生後の報告書の提出、行政含め体制を整えている。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14					こども、保護者共に安心してもらえる療育と環境作りに努めていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10	3	1			楽しいと思ってもらえるような支援内容を提案していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					個別に対応して全員の方に満足してもらうよう努めていく。

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		こどもサポート教室「きらり」岡崎羽根校				公表日		2026 年 2 月 14 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを 確保している。	視界に他の子どもが入らないよう可動式壁を使用している。音漏れの問題は、個別対応していく。この環境での集中力を強化するよう努めている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる配置数を、配置している。	適切な配置数であることを周知していく。できる限りの増員配置を要望していく。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		屋外は、駐車場の位置から、現状完全なバリアフリーは難しい。屋内はバリアフリー化されている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃・安全点検・換気・加湿・消毒等を、毎営業日に 実施している。	個室がない為、必要に応じてパーテーションなどを利用していく。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			状況に応じて個別のスペースは確保しにくい。パーテーションや、イヤーマフなどを使用する。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		各種会議(防災・感染症・身体拘束・虐待)を定期的に実施し、業務改善に努めている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		法令に合わせて年1 回、事業所評価を実施し、業務改善につなげている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			打ち合わせの他に、ケース会議を開き意見をくみ取り、支援に活かしていく。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			弊社の他事業所と共に、第三者評価の導入を検討していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事例検討会・ウェビナー研修 を月1回以上実施。その他、外部研修への参加など、出来る限り多く研修の機会を確保している。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			1月中に行政へ支援プログラム作成公表について届け出済。			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとに、関係職員 で話し合い、児童発達支 援計画を作成している。	ニーズを把握し、関係職員する職員で話し合い、計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ガイドラインに沿って、一人 ひとりに合わせた、具体的な支援内容を設定している。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画に沿った支 援を実施している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		社内で統一したアセスメント シートや発達プログラムを 使用している。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		新規・更新の際に計画の説 明を行っている。同意を得て から支援を開始(継続)して いる。	本人支援においては、個別支援策政治から「5領域」を必ず取り入れ、実際の支援においても取り入れ記録にも残している。家族支援は座談会や、個別の相談体制を整える。移行支援は、関係先と連携がとれるよう努めている。要望に合わせてなので、まだ回数は増えていないので機会を設けて今後は増やしていく予定。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		複数職員で担当する場合、専門性が求められる場合は、チームで立案を行っている。	毎月ケース会議を開き、個々のお子さんにとってのよりよい支援を話し合っている。保護者と話した内容によっても、変更していく。			

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ご利用時に、保護者様と打ち合わせを行い、情報共有 やご要望の把握に努めている。	
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。	集団活動のニーズがあるか、定期的に調査を行う。 集団活動の事業所を併用している利用者様については、事業所間の連携を密に行う。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝の打ち合わせ等で、確認を行っている。	打ち合わせに 参加できない場合は、今後も会議録を通して周知を図っていく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		情報共有を行っている。緊急性のない場合は、翌朝の 打ち合わせ等で確認を行っている。	打ち合わせに 参加できない場合は、今後も会議録を通して周知を図っていく。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録、業務日報等の 記録を残し、支援の検証・改善につなげている。	
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に面談を行い、見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者それぞれの立場から 専門性を活かした意見を述べている。	
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			緊急時対応の為に、状況に応じて体制を整えていく。
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			入学後の進路も含めて、相談や助言を行っていく。要望があれば関係先連携会議を実施し情報共有を行っていく。随時保育所訪問も行っていく。
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			保護者の要望や、情報共有の希望があれば、関係先連携会議を入学所定の学校で行っている。
	(28～30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			地域担当の児童発達センターのサポートを受けていく。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			状況に応じて体制を整えている。今後、人員確保ができ、要望に応じて保育所訪問等行っていく。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		見学の時から、ご利用時に、保護者様と打ち合わせを行っている。情報 共有やご要望の把握に努めている。	話し合いの場をできる限り、設けていく。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者様からのご要望に応じて実施している。	フィードバック時、子育てサポート・家族支援等個別の対応を増やしていく。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際、保護者様と書 面の読み合わせを実施して いる。ご質問には、適切にお答えしている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		新規・更新の際に計画の説明を行っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		同意を得て から支援を開始(継続)している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご相談内容に合わせて、必要な助言と支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。	父母の会は、特に設けていない。 保護者同士の交流の場合は、以前はあったが現状は停止状態にあるので、復活していく予定。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談に応じて、迅速かつ適切に対応している。体制整備が難しい場合は、その旨をお伝えしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログやインスタグラム等SNSを通して、活動内容やスケジュール等を伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報、鍵付き書庫等で管理している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚的な補助(図やイラスト、掲示板、便り)等を活用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		マンツーマンのニーズに合わせて、個別活動を中心に行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、定期的に訓練を行っている。	訓練を、ホームページや校舎内掲示などで周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		支援を止めない為に、感染症蔓延、災害時の対策を整えて、平常時より備えている。	職員間で、BCPの内容を周知して、平常時より備えておく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかんなどの病歴について、契約・契約更新時に把握するようにしている。	随時丁寧な、聞き取り調査を繰り返していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについて、契約・契約更新時に把握するようにしている。	随時丁寧な、聞き取り調査を繰り返していく。 現状該当者はいない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画は作成し、研修会議、点検、周知している。（ホームページなどで）
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画は作成し、研修会議、点検、周知している。（ホームページなどで）
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、原因と対策についての情報共有を行っている。 定期的に対策の見直しを行っている。	再発防止に努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		月1回以上の会議、年1回以上の研修を継続している。	身体拘束・虐待ゼロを継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束等について月1回以上の会議を行っている。取り決めに従って、保護者様の了解のもと、必要書類等の記録を残している。	身体拘束・虐待ゼロを継続していく。